

「トヨタテストコース計画」

# 環境検討会設置へ

県企業庁

トヨタ自動車が豊田、岡崎両市にまたがる山林に建設する国内最大級のテストコース計画で、用地造成を担当する県企業庁は、敷地内の自然環境の維持管理方法を考える「自然環境保全技術検討会」を新たに設置し、第一回会合を十七日に名古屋市内で開く。

計画地（六百六十

畝）で希少な野鳥が確認されたことなどを受け、トヨタ自動車と県企業庁は昨年九月に予定地の改変面積を当初の四百十畝から二百八十畝に引き下げるなどの計画見直しを発表。

県企業庁はこれまでに計画地の九割の用地買収を終えたという。本年度前半にはすべての買収を終え、実施設計や環境調査に着手する。

（山本真嗣）

◇検討会の委員の皆さん

▽洲崎燈子（豊田市矢作川研究所主任研究員） 鷺見哲也（大同大准教授） 芹沢俊介（愛教大教授） 谷口義則（名城大准教授） 林富造（豊田森林組合常務理事）

柳沢紀夫（日本鳥類保護連盟理事）

来春まで四回ほど開く予定で、県企業庁は検討会の提言を造成に

反映させる。会合は非公開。

確認されたサシバが餌場になっている水田の保全対策などを話し合う。

予定地内に残す森林や絶滅危惧種で生息が

や管理、鳥類などの学識経験者六人で構成。

検討会は森林の生態

や管理、鳥類などの学識経験者六人で構成。

予定地内に残す森林や絶滅危惧種で生息が

確認されたサシバが餌場になっている水田の保全対策などを話し合う。

来春まで四回ほど開く予定で、県企業庁は

検討会の提言を造成に

反映させる。会合は非公開。

計画地（六百六十

畝）で希少な野鳥が確認されたことなどを受け、トヨタ自動車と県企業庁は昨年九月に予定地の改変面積を当初の四百十畝から二百八十畝に引き下げるなどの計画見直しを発表。

県企業庁はこれまでに計画地の九割の用地買収を終えたという。本年度前半にはすべての買収を終え、実施設計や環境調査に着手する。

（山本真嗣）